

「私たちの道徳」長期休業中などにおける家庭での活用例

文部科学省は「私たちの道徳」を長期休業中には家庭へ持ち帰って活用するように働きかけています。しかし、持ち帰らせたものの、使い方について何も示していないため、使わずにまた学校に持ってくるという学校も少なくないようです。

そこで、道徳部で長期休業中などにおける、家庭での活用例を考えました。参考にいただければと思います。

【低学年】

低学年は家庭用の書き込み欄が多いので、保護者への連絡をしっかりとすることで、家庭での活用がしやすくなります。

○P15 「きそく正しく気持ちのよい毎日を」

- ・家の片付けチェックを家族の人と一緒にチェックしてもらう。

○P20 「生活をふりかえってみよう」

- ・一日の生活リズムを家族と一緒に確認し合う。お父さんは大丈夫？お母さんはできてる？など、家族の会話のきっかけとすることもできる。

○P24 「自分でやることはしっかりと」

- ・家のお手伝いについて、家族にチェックしてもらい、コメントも記入してもらう。

○P56 「気持ちのよいふるまいを」

- ・できるようになりたい挨拶を決めて実行し、感想を記入してもらう。

○P82 「お世話になっている人にかんしゃして」

- ・家の人と一緒に街の中の「ありがとう」を探してもらう。その際に、親の視点から、子供の視点から、のように様々な角度から「ありがとう」を見つけられるようにしたい。

○P91, P92 「いのちを大切に」

- ・生まれたときの様子を家族に聞く。
- ・親兄弟が活着ていると実感するときについて家族で話し合う。

○P119 「やくそくやきまりをまもって」

- ・家族の人と一緒に街の中の「きまり規則」を探してもらう。その際に、親の視点から、子供の視点から、のように様々な角度から「きまり規則」が

あるのかを話し合ってもらおう。

○P121 「やくそくやきまりをまもって」

・P119 で話し合ったことを「町」の欄に記入する。

○P133 「はたらくことのよさをかんじて」

・家の自分の仕事（玄関そうじ、靴そろえなど）はしっかりやれているかどうか、家族に聞く。

○P139 「家族のやくに立つことを」

・家の人からのメッセージをもらう。P133 のことでもよい。

○P152 「ふるさとに親しみをもって」

・学区の行事や文化財などについて、家族に聞く。その際、昔の様子について話してもらい、今との違いについて気づけるとなおい。

【中学年】

中学年も低学年同様、家庭用の書き込み欄を活用できます。

学級通信、学年通信で活用を呼びかけるのも効果的です。

○P23 「目標に向かってがんばり続けるひけつ」

・「目標をやりとげられるひけつを取材してみましよう」で、

①本を読む ②家族に聞く ※家庭学習として取り組ませる。

○P49 「伝記を読もう」

・伝記を読むことを宿題に出し、記入する。

○P84, P85 「今のくらしをつくったお年よりたち」

・長期休暇で里帰りする機会など、家族・親戚が集まる機会をとらえて、おじいちゃんたちにどんな仕事をしてきたのかを聞く。

○P91, P93 「生きているってどんなこと」

・お盆、お正月など自分の命のつながりを感じられるような節目のときに、家族で話し合う時間を設け、家族で話し合ったことをもとに自分の考えを入れて記入する。

○P86 「朝がくると」

P94 「いのちあるかぎり生きる」

P100 「生きているって」

・これらの詩を、音読の宿題として出し、何度も繰り返し読む機会を設け

る。

○P106 「自然や動物、植物との関わり」

- ・これまでの飼育経験を家族と一緒に、思い出しながら記入する。

○P133 「家や地いきでみんなのためにできること」

- ・「家での仕事」の欄に休みに続けてやったお手伝いについて書き、「家族からの一言」を書いてもらう。ボランティアができた子は、そこも書く。

○P136～P139 「家族」

- ・成長を見守ってくれている家族に思いを聞いて、記入する。その上で、自分で139ページにまとめる。

○P160, P161 「ふるさとをしようかいしよう」

- ・3年生の夏休み日誌に同じような内容のページがあるので、合わせてやる。若しくは、夏休み日誌に書いたことを生かして、このページで振り返る時間とする。

【高学年】

高学年では、家庭での書き込み欄が少なくなっていますが、工夫をすればいくつかのページで活用ができます。

○P16 「自分の生活を振り返ってみよう」

- ・休み中の生活を振り返って、心掛けたことや反省を書く。

○P21 「私が学びたい人物」

- ・宿題として、伝記を読むなど、尊敬する人物について調べ、その人物について記入する。

○P43 「好奇心から何かが生まれる」

- ・宿題として、生活の中にある便利なものを探し、どのようなきっかけで生まれたのかを調べて記入する。

○P51 「自分の良い所を見つけよう」

- ・家族に聞き、記入してもらう。

○P102 「自分の命を見つめよう」

- ・幼いころの自分の様子やエピソードを家族から聞いて書き込む。

○P155 「自分にできるボランティア活動」

- ・地域や社会のために何ができるか、家族と相談して、書き込む。

○P159 「大切な家族を思って・・・」

- ・家族の一員としての役割を家族へのメッセージの欄を学校で書き込んでおき、それに対するコメントを書いてもらう。(コメントを書ける欄はないので、余白などに書いてもらう)

○P184～P187 「情報社会に生きる私たち」

- ・家族で一緒に読み、情報機器の使い方やネットモラルについて話し合う。
P185に家族の考えを書き込んでもらうのもよい。

【中学校】

家庭で話し合う、書き込んでもらうという活動は難しいかもしれません。保護者に「私たちの道徳」の内容を知ってもらうことも大切です。

○P63 「見つけよう、友達の良さを」

- ・家族や人生の先輩にそれぞれの考える友情について記入してもらう。

○P173 「働くことの楽しさ、難しさ」

- ・家族や親戚などで実際に働いている人にインタビューをして、それぞれが感じている働くことの楽しさ、難しさについて記入する。

○P202 「ふるさとを愛するということ」

- ・父母だけでなく、祖父母や長期休暇だから会える親戚などにふるさとへの思いを聞き、自分の考えを書く。

○P226～P229 「考えよう情報社会の光と影」

- ・保護者に読んでいただき、感じたこと話し合ったことを、別紙を用意し記入してもらう。

※「コラム」や「メッセージ」などを自由に保護者に読んでいただき、そこで感じたことや、伝えたいことを P239 の「家族からのメッセージ」に記入してもらったり、保護者が見つけた言葉などを通して話し合いを行い、「私が出会った言葉、心に響いたあの一言」に記入したりする。

※文部科学省から「私たちの道徳」活用のための指導資料」が3発行されています。文部科学省のホームページから、ダウンロードもできるようになっています。「家庭との連携」という欄が各項目にありますので、参考にするとよいでしょう。